

学校運営計画(4月)		評価(3月)		
<p><b>学校運営方針</b></p> <p>校訓「質実剛健 自学自習」、校是「たくましく前進者たれ」のもと、社会の変化に主体的に対応し、心身ともに健康で、五常の徳目を自己の生活規範となし、自らの可能性に積極的に挑戦する気概と叡智に富み、地域はもとより国際社会に貢献する人間を育成する。その実現のため、次の3つの教育目標を掲げる。 ○学問を愛し、意欲的に学ぶ。 ○身体を鍛えて、強い実践力を身につける。 ○力をあわせて、美しい学校をつくる。</p>				
<p><b>昨年度の成果と課題</b></p> <p>「新しき世紀を創る～鞍高百年～」をスローガンに、様々な百周年記念行事を成功させ、地域から高い評価をいただいた。この成功体験を通し、生徒の自主性や協調性を育み、「たくましく前進者」としての自覚を促すことができた。 またSGHの事業として筑豊会議を開催したことで、地域や大学との連携を深化させ、グローバルな人材育成を推進することができた。2期目に入ったSSH事業では新しい試みをスタートさせたが、今後、SGHとSSHの課題研究の成果が、生徒の進路実現に結びつけられるよう組織体制を整備することが大きな課題である。</p>		<p><b>30年度重点目標</b></p> <p>授業改善を図ることで学習指導をより一層充実させ、確かな学力の育成を図るとともに、英語イマージョン教育も活用し、主体的・対話的で深い学びの実践を強化する。また、進路指導の充実により、高い志を持ち意欲的に学ぶ生徒を育てる。</p> <p>生徒相互及び生徒と教師との人間的な触れ合いの中で、豊かな人間性を育み、自律心と思いやりの心を持つたくましい生徒を育てる。</p> <p>SSH及びSGH事業を学校全体で推進するとともに、大学や外部機関との連携を深め、課題研究等を通じた教育活動の更なる充実・深化を図る。また、このような本校独自の学びの道筋を的確に整理し、新1年生に求められる高大接続改革に向けた取組を他校に先駆け推進する。</p>		
		<p><b>具体的目標</b></p> <p>生徒の学力向上に向け、研究授業・授業公開等を積極的に実施する。主体的・対話的で深い学びを充実させ、学ぶ意欲やチャレンジ精神等の向上を図る。英語イマージョン教育等を通して、全教科にわたり授業の進め方を見直し新たな学びに向けた取組を実践する。総合的な学習の時間の内容の充実や高大連携の活性化を図るキャリア教育の推進により生徒に高い志を持たせ、第一進路希望の実現を図っていく。特に九州大学等10名以上と国公立100名以上の合格を目指す。</p> <p>学校行事の教育的意義や期待される成果等を全ての生徒・教職員で共有する。それにより、生徒の主体的で積極的な態度を育成し、教職員・生徒が一体となって一つひとつの行事を充実させる。分団制を推進することで、上級生がリーダーシップを発揮し、自主性や集団への帰属意識を高めて生徒の生きる力を育む。また、鞍高宣言の主旨を浸透させることでいじめの撲滅を推進するとともに、元氣な挨拶が飛び交う学校を目指す。</p> <p>高大連携、研究機関・企業・地域との連携を積極的に行うことで、SSH及びSGHの取組を充実・深化させ、生徒の主体的・自主的学習態度の涵養に資する。ICTを使った国際会議への取り組みも推進し、グローバルシティズンシップを備えた人材育成を図る。教科科目の学力向上のみならず課題研究においては、解決困難な課題にグループで挑ませることで「鍛ほめ福岡メソッド」を実践し、自尊感情やコミュニケーション能力、課題解決能力等の育成を目指す。このような本校独自の学びの道筋を整理できるシステムを構築するとともに、地域や中学校に広く周知するため広報に力を入れる。</p>		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度への主な課題
教務領域	教育課程を改善する。	SSH・SGHにおける探究的な学習を一層推進する教育課程を作成する。新学習指導要領施行に向けて新しい教育課程の作成準備を行う。		
	教務規定を改善する。	教務規定を周知徹底するとともに、大学入試改革に対応できるよう教務規定を見直す。「留学規定」を整備する。		
	授業改善を図る。	「授業開発アンケート」(身に付けさせたい力、到達目標、目標を達成するための手だてを明確にし、到達できたか、手だては有効であったかをきくアンケート)を全教員で実施する。英語イマージョン教育を推進し、主体的・対話的で深い学びの実践を強化する。		
	欠席や欠課の多い生徒を早期に把握し、対応する。	欠課時数報告書を活用し、教科担当からクラス担任に迅速に生徒の状況が伝わるようにする。		
	本校の特色や魅力を積極的に広報する。	新入生に対してアンケートを実施し、中学生が本校を志願した理由や本校の魅力を探り、今後の広報活動にいかす。中学生体験入学や中学生保護者対象の学校説明会、公開授業週間を実施し、本校の特色を積極的に発信する。ホームページの定期的な更新をする。		
	情報機器を活用した授業を推進する。	電子黒板やプロジェクター、生徒用情報端末機器を活用した授業を推進するとともに、有効な活用方法を探り、共有化する。		
	個人情報適切に管理する。	成績や、生徒に関する情報を厳密に管理する。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度への主な課題	
生徒指導領域	教師のカウンセリングマインドに基づいて、生徒の元気で意欲的な学校生活を保障する。	教師が生徒一人一人に目を向け、生徒に自己肯定感を持たせ、自立の心を高めることができる生徒指導を推進する。 学校満足度調査において、学校満足度90%以上を継続する。				
	基本的生活習慣の確立を図る。(時間厳守、挨拶、整理整頓)	生徒会や分団リーダーによるマナーアップ運動を展開する。(挨拶の励行) 全職員による生活指導、マナー指導を行う。(定期的に登下校指導等を行う。)				
	上級生のリーダーシップを生かし、生きる力を育む生徒指導を展開する。	75%以上の部活動加入率を継続し、文武両道を目指す生徒の育成を目指す。 生徒主体の分団制による生徒会行事を通して共感的人間関係を育成する。				
	心身の健康を自己管理できる生徒を育成する。	教育相談委員会や学校医と連携して教育相談体制の充実を図る。 保健講話等による健康教育の充実やインフルエンザ等感染症の予防の徹底と迅速な対応を行う。				
	委員会活動を活性化し、美しい学校をつくる。	生徒への健康管理啓発活動を行いながら高等学校保健会での活動を積極的に行う。 全生徒・全職員による毎日の清掃活動による環境美化の充実を図る。				
	学校の教育活動全体を通して、様々な人権問題について理解を深め、実生活に活かせるように指導の充実を図る。	人権教育授業を充実させ、生徒に人権感覚を身につけることができるよう、指導の充実を図る。 生徒間の交流や学級活動を通して、より良い人間関係を築くためのコミュニケーション能力を養成する。				
	生徒の実態を知り、素早い対応が取れるよう、アンケートや職員研修を充実させるとともに、鞍高宣言の主旨の浸透を図る。	いじめアンケートや学校生活アンケートを実施し、問題に迅速に対応できるよう努める。 校内職員研修会を実施し、職員間で生徒の情報を共有する場を設け、指導の充実を図る。				
	進路指導領域	進路実現のための学びの環境・体制整備	課外授業や土曜セミナー、模擬試験の円滑実施とその深化を図る。 高校3年間での活動と成長を見通す進路学習の体系化。特にキャリア教育と模擬試験。進路情報の学校全体での共有方法について工夫。 放課後(特に部活終了後の)自学室の設置。学校全体の学びの雰囲気の高揚を図る。			
		進路実現のための学びの深化	難関大に合格させるための教員の指導力向上。「鞍高九大プレ」の検討。 模擬試験を軸とした学力伸長PDCAサイクルの実践。進研模試国数英GTZのA1以上を各学年20人を目指す。 「その気にさせる」校風の醸成。ハイレベル模試の定着を図るなど、難関大を目指す(そのためにしっかりと学ぶ・それに応える授業を行う)地道な努力を継続する。			
		新テスト・高大接続改革への対応	ポートフォリオの作成に向けた情報収集・活用手法についての研究とその導入を図る。 課題研究の充実、さらにその取組みが進路実現に活用できる方策の研究と実践。 新テストにかかわる情報収集と教員間での情報共有を図り、授業に活かせるように工夫する。			
庶務課		諸行事を円滑かつ効率的に実施するため、事務的処理を的確に行う。	年間の行事・業務を念頭に置き、諸行事の分担・手順を早期に確認することで事務的処理を的確に行う。			
		PTAとの連携を密にし、各種委員会活動の充実を図る。	PTA役員会・理事会を通して本校の現状を理解していただき、PTA活動の見直しと充実を図る。			
	文書・情報の整理、保管並びにその改善を図る。	運営委員会議事録・職員会議議事録を作成し、常に前年度との比較・参照ができるような整理・保管に努める。				
	職員室をはじめ、職場環境の整備・充実を図り、職員の福利・厚生に努める。	職員室・更衣室・下足ロッカー等の整備を行い、気持ちの良い職場環境の維持に努める。				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度への主な課題
理数科	理数化としての特色・専門性を強化する	SSH課との連携を密にし、「SS理数探究Ⅰ」「SS理数探究Ⅱ」の評価方法を工夫し、一層の充実を図る。			
		SSH課、各教科と連携しながら、今年度から導入される「SS理数探究Ⅱ」(2単位)の内容、運用方法を確立する。			
		サイエンスリサーチの実施方法を再検討し、より一層の充実を図る。			
	中学校や地域に対する広報活動を充実させる	学校ホームページ上に、課題研究の内容、在校生や卒業生のコメントなどを掲載し、理数科の内容の充実を図る。			
ホームページと同様の内容を紙媒体でも制作し、中学校訪問の際に配布する等の方法で、中学校への広報をより確実に行う。					
進学実績を向上させる (国公立大学30名以上・うち難関大5名以上)	各学年、特に第3学年との連携を密にし、A0入試や推薦入試等の情報収集を行う。				
	入試改革についての情報収集を行い、理数科独自のカリキュラムを今後の入試に生かす方策を検討する。				
人間文科コース	人間文科コース生徒の基礎学力の定着、その上での応用力の向上を図り、コース特性を活かせる進路実現をめざす。	各教科における習熟度別授業・少人数授業を展開し、基礎学力の向上を図る。またコース独自の授業を活用して文系科目の強化を図る。			
		課題研究でのグループ討議・論文への取り組みや海外研修での経験を活かし、推薦・AO入試に積極的チャレンジし、国公立大学10名以上の合格をめざす。			
	SGH事業との連携をより強化し、各セミナー、海外研修・課題研究の内容、進め方の充実を図る。	国際学生や留学経験のある卒業生との交流を通して、広い視野を身につけさせる。また自分の意見を持ち、発表できるプレゼンテーション能力を培う。特に英語力を強化する。			
		SGH事業との連携で課題研究や海外研究の充実を図り、生徒間において自己の意見をしっかりと述べる力を育成し、SGH事業の核となる取り組みを行う。			
大学との連携や校外へのPR活動を積極的に行い、コースのレベルアップに努める。	各セミナー・課題研究を通して、大学との連携を図り、生徒自らが考え、行動できる力を育成する。				
	人間文科コースの活動内容をまとめ、行事やホームページ等を通して校内外において、コースに対する理解を深める。				
SSH課	創造的思考力を育成する課題研究プログラムの開発	学校設定科目を積極的に活用して、理数科目に関する興味・関心を高め、高い学力を養成する。			
		課題研究テキストを作成し、生徒個人で思考する場面を多く取り入れることで、より深く課題に対して取組むことで、創造的思考力等の応用的な力を育成する。			
		大学や他の研究施設との連携を推進し、より独自性と発展性を高めた理数教育の実現を図る。			
	深い学びのための授業改善の活性化	授業開発アンケートの実施率の向上と授業開発における職員研修会の活性化を行う。			
実施結果を分析することで、校内の授業改善における課題を算出し、取組の改善に活かす。					
たくましく7つの能力の評価法の開発	各教科にあける授業開発アンケートの到達度を分析することで、たくましく7つの能力を定義する。				
	SPSSやKHcoderを活用し、アンケート等の分析を進め、取組の改善に活かす。				
SGH課	「『深い』学びの場」としての課題研究の推進	各研究班において「深さ」の軸を設定し、大学や地域、教科と連携して「深さ」追求する。			
		SSH課と協力して文系生徒・理系生徒双方に通じる課題研究プログラムを作る。			
	高大連携・地域連携ネットワーク作り	大学との連携を深め、大学教授及び学生TAとの活動を充実させる。			
		自治体および地域住民を巻き込んだ活動を展開する。			
アンケート及び成果物の分析による取組の改善	ポートフォリオを作成し、生徒の学びの成果を分析する。				
	SPSSやKHcoderを活用し、アンケート等の分析を進め、取組の改善に活かす。				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度への主な課題
1 学 年	基本的な生活習慣の確立 (良い習慣作りのための指導)	安易な欠席・遅刻をなくし、年間出席皆勤140人以上を目指す。		
		元気の挨拶と時間厳守を励行する。		
		部活動加入率80%以上を目指す。		
	自ら学ぶ態度の育成	K-Note(学修記録手帳)を有効に活用し、家庭学習の習慣化を図る。		
		授業や提出課題に対する心構えを継続的に指導することにより、自立型学習者を育成する。		
		現代社会探究を通して社会を知り、自分を知り、学問を知り進路意識を高揚させる。		
進路目標の確立	新大学入試を視野に入れつつ、民間外部試験、課題研究等を通して新たな学びを定着させる。			
	校外模試の早期分析し、活用する。国数英総合の平均偏差値54以上を目指す。			
2 学 年	進路意識の更なる向上を目指す	課外授業(九大チャレンジ)への積極的参加を促し、実践力を育成する。		
		大志を抱かせ、何事も継続していく強い心を育てる。		
		進研、全統両方の校外模試において、国数英総合偏差値 56以上90名以上 63以上10名以上。		
		英検2級合格者 30名、準2級合格者 100名を目指す。		
		理系文系でのそれぞれにおける全国偏差値を意識させ、デジタルサービスを利用し、進路意識を向上させる。		
	互いに思いやる心の育成に努める	挨拶を励行する。		
		全教育活動を通して、いじめを許さず、お互いに尊重し合える雰囲気大切にさせる。		
		一人で問題を抱え込まず、まわりに助けを求めることのできる雰囲気を大切にさせる。		
	基本的な生活習慣の更なる確立を目指す	部活動加入率 85%以上を維持する。		
		1ヵ年間出席皆勤130名以上、2ヵ年連続出席皆勤110名以上を目指す。		
		学校行事への積極的参加を促し、鞍高の学校行事は鞍高生が作る精神を継続して育成していく。		
	鞍高生としての「誇り」の涵養に努める	分団制による取り組みの中で中堅学年としての役割を自覚させ、学校生活を中心に据えた生活態度を身につけさせる。		
「言われたらできる」から「自分で考え行動できる」人へ成長させていく。				
鞍高愛を育み、校内外でのマナーアップ精神の涵養に努めさせる。				
3 学 年	破壊…新しき世紀を創る	伝統を継承しながら、質的に新しい学校行事を創造する		
		学校行事を通して学校への帰属意識を高め、生徒相互の一体感を高める		
		生徒自身の将来像の再検討。		
	変化…自律・自立した学習習慣・生活習慣の確立	コモ勉を効果的に活用し、1日の総学習時間数を増やす		
		下級生の模範となる生活態度を送らせる(出席皆勤:130名目標)		
		先を見通し、今すべきことがきちんとできる生徒の育成		
	成熟…進路目標の実現	難関大10名、国公立大100名合格。		
		SSH・SGHの学びの成果を活かし、推薦・AO入試で国公立大合格者25名		
		多様な進路に対応する、指導の差別化、重点化。		